

思い出

八千代東高等学校 戸木 修*

1 思い出

37年間勤めた学校もこの3月で定年退職です。公私共々、色々なことがありました。初任の時に比べ、学校があまりにも忙しくなりすぎました。数学科の職員室で序々に荷物を整理していると、過去に撮った写真や、原稿が出てきました。

この写真は、船橋西高(1993年頃)で文化委員会の顧問をしていたとき、文化祭に生徒会から2万円で何かを作ってほしいといわれたときのものです。敷布を何枚も買ってきてパスカルの三角形のぬり絵を行いました。奇数を青、偶数を赤でぬってあります。ぬり絵は文化委員がペンキで、ぬってくれましたが、ミシンで敷布を縫い合わせるのは、ミシンが1台しかなかったせいか、なかなかはかどらず、とても時間がかかりました。



この写真は2002年10月31日、お台場の「日本科学未来館」でマンデルブロ博士が来日し、フラクタル「その教育における役割」という講演を行った際、最後に一緒に写真を撮ったものです。1992年8月にICME7(第7回世界数学教育者会議、カナダ・ケベック市・ラバル大学)でゲストとしてのマンデルブロ博士の講演を聴きましたが、会場の後の方で聞いたせいか、また日本語通訳もなかったので、あまり印象がのこりませんでした。このときの来日の目的の一つには、遠い将来、日本の高校数学にもフラクタルをいれてもらいたいという目的があったようです。詳しくは数学セミナー2003年3月号にのっています。

次の原稿は、2002年の $\alpha-\omega$ にのせようと原稿を準備したのですが、原稿の μ 切までに間に合わなかったものです。

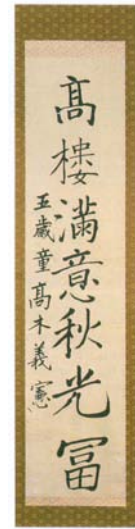
*平成21年度末に定年退職、現在は船橋旭高等学校

2 高木貞治のふるさとを訪ねて

初冬の弱い日差しを浴びて、すっかり葉が落ちた柿の木に真っ赤に熟した柿の実が2, 3個ぶらさがっている。『近世数学初等談義』『数学概論』等の著書で有名な高木貞治博士のふるさと、岐阜県本巣郡糸貫町(2004年より本巣市)を仲間と訪ねました。糸貫町は岐阜市と大垣市の中間位にあり、町周辺は土壌が柿栽培にあっている為、富有柿の産地でもあります。



図 2. 1: 町の社会福祉センターの一室(学校の一教室よりやや広い位のスペース)に高木貞治資料室が常設されており、書やノート、写真等が展示されていました。



貞治博士5歳の時の書

図 2. 2: 資料室に展示されていた書道作品も5才とはおもえないものです。

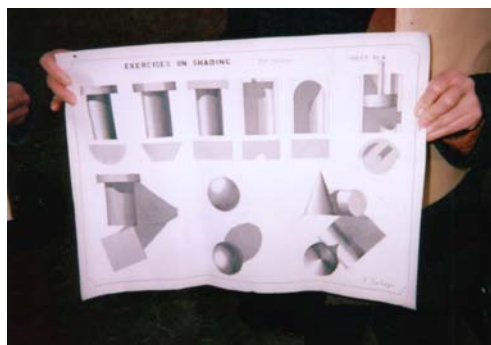


図 2. 3: 高木博士の研究者である高橋彰太郎氏から見ていただいた博士の子供の頃描いた立体図形。性格は緻密で几帳面であることがわかります。



図 2. 4: 福社会館からほど近い糸貫中学校には次代を背負う若者の大成を願って建てられた貞治博士の胸像もありました。



図 2. 5: 2001 年に町の全戸にも B5 版で、50 ページからなる伝記漫画『高木貞治物語』を配布、とても読みやすいです。

柿栽培農家である高木家も訪問し現当主、高木英美氏ご夫妻にもお会いしました。高橋彰太郎氏より貞治博士のエピソードを聞きながら、富有柿や甘酒をごちそうになりました。帰りにはおみやげの柿までいただき、日が西に傾いた初冬的美濃路をあとにしました。